



日本では津波により、たくさんの人が亡くなったことがあるの

1896年の「明治三陸地震津波」などで、たくさんの人が亡くなった

三陸海岸の沖の海底は、日本海溝とよばれる、非常に深い、海底のみぞがあって、昔から地震が、よく起こっています。宮城県・岩手県・青森県にかけての、三陸海岸は、今までに何回も、津波におそわれてきました。

1896年6月15日の、「明治三陸地震津波」では、2万1959の人が亡くなりました。

それから37年後の、1933年3月3日の、「三陸地震津波」では、亡くなったり、行くえ不明の人が3064人いました。

この2つの津波は、マグニチュード（地震のエネルギーの大きさを表す）8をこえる、巨大地震によるものです。

チリ南部沖地震などによる津波

そのほかの、日本各地の津波による被害は、次のとおりです。

1960年5月23日 チリ南部沖の巨大地震による津波が、1万7000キロメートル以上もはなれた、日本の太平洋側におしよせ、亡くなったり、行くえ不明の人が142人いました。

1983年5月26日 日本海中部地震により、104人が亡くなりましたが、そのうちの100人は、津波で亡くなりました。

1993年7月12日 北海道南西沖地震で、奥尻島に最大で、20メートルをこえる津波がおしよせ、大火事も起こり、亡くなったり、行くえ不明の人が230人いました。（監修・国司 真）

